

2020 年度県民意識調査「兵庫の未来を考える」結果概要

2021. 4. 19 ビジョン課

I お住まいの地域

問	結果概要 ◆印は前回(2017年度)調査項目	新ビジョン検討への示唆
1	<p><b>(居住地域の生活環境の満足度) ◆</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「満足(18.6%)」と「まあ満足(55.2%)」を合わせた『満足』は前回調査(H29:72.2%)より1.6ポイント増加し、73.8%となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活環境の満足度は総じて高いものの、<b>都市部で高く、地方部で低い傾向</b>が見て取れる。</li> <li>・今後の課題を探るために『不満』が多い項目に目を向けると、『不満』は「公共交通、道路整備(30.8%)」「娯楽・レジャー施設、公園(29.9%)」「商店・商業施設(28.7%)」「雇用、働く環境(24.5%)」の順に多い。</li> <li>・地域別に見ると「公共交通、道路整備」では淡路(57.9%)、丹波(54.8%)、但馬(53.7%)の順、「商店・商業施設」では但馬(54.0%)、淡路(46.6%)、丹波(42.9%)の順、「雇用、働く環境」では但馬(50.4%)、淡路(50.0%)、西播磨(42.5%)の順に『不満』が多く、<b>地方部ほど生活環境への不満が多い。</b>【p.6 参照】</li> </ul>
2	<p><b>(居住地域での項目別満足度) ◆</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『満足』(＝満足＋まあ満足)は「大気や水などの環境(56.8%)」「商店・商業施設(56.5%)」「子育て・教育環境(50.0%)」「公共交通・道路整備(49.5%)」の順に高い。</li> <li>・前回から傾向は変わらず。前は「大気や水などの環境(55.2%)」「商店・商業施設(53.8%)」「公共交通・道路整備(49.3%)」「子育て・教育環境(48.8%)」の順に高い。</li> </ul>	
3-1	<p><b>(居住年数) ◆</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約6割の人が「20年以上」現在の住まいで暮らしている(58.3%)。</li> <li>・地域別では「20年以上」で最も地域差が大きく(32.9ポイント)、西播磨(81.6%)が最も高く、阪神南(48.7%)が最も低い。</li> <li>・前回から傾向は変わらず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>都市部で短く、地方部で長い傾向</b>が見て取れる。特に阪神地域は「20年以上」が少なく(阪神南48.7%、阪神北49.0%)、住民の流動性の高さが窺われる。</li> </ul>
3-2	<p><b>(居住場所についての考え方)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「一つの場所に長く定住する」が8割を超えている(81.1%)。</li> <li>・年代別では、40代以上の世代すべてで8割を超えている。</li> <li>・地域別では、7地域が8割を超えており、8割を下回る地域でも神戸(78.6%)、阪神南(77.8%)、淡路(77.7%)と概ね8割に近い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>全地域とも定住志向が強い。</b></li> <li>・年代では20代の定住志向が相対的に低めだが、30代になると他の世代との大きな違いがなくなるので、若いほど定住志向が低いというよりは、単に家を所有する(＝住む場所を決める)前なので、そうなっているだけだと解する方が事実に近いのではないかと。</li> <li>・<b>「集中から分散へ」を新ビジョンの柱とするのであれば、分散型社会の姿を県民の共感を得られるようなわかりやすい形で描き出す必要がある。</b></li> </ul>
3-3	<p><b>(居住したい場所)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『地域の中小都市』が5割超の一方(54.6%)、『大都市』は約2割となっている(23.6%)。</li> <li>・地域別でも、すべての地域で『地域の中小都市』が『大都市』を上回っている。また、淡路、丹波、但馬では「自然豊かな農山漁村」が3割を超えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>全県的に『地域の中小都市』志向が強い。</b>神戸、阪神地域の住民が自らを『地域の中小都市』在住と認識している可能性はあるものの、これらの地域の住民が『大都市』より『地域の中小都市』志向であることは分散型社会の必要性を説く一つの論拠になり得る。</li> </ul>

3-4	<p>(居住地の選定の視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「買い物が便利なところ(68.8%)」「医療・福祉サービスが安心して受けられるところ(56.7%)」「主要な駅など交通の結節点に近いところ(47.0%)」の順に多い。</li> <li>性別で最も差が大きいのは「親族や親しい人が近くに住んでいるところ(10.8ポイント)」</li> <li>年代別で最も差が大きいのは「医療・福祉サービスが安心して受けられるところ(52.2ポイント=70代(77.0%)と20代(24.8%)の差)」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「買い物が便利」「医療・福祉サービスが安心して受けられる」「主要な駅など交通の結節点に近い」のトップ3と4位「学校や職場に近いところ(25.8%)」以下のギャップが大きい。<u>通勤・通学の便、自然環境や街並みの美しさ、静謐性などよりも、圧倒的に「生活利便性」が支持されている。</u></li> </ul>
-----	--	---

## II 日々の暮らし

問	結果概要 ◆印は前回(2017年度)調査項目	新ビジョン検討への示唆
4	<p>(日常生活における充実感) ◆</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1位「家族団らんの時(63.3%)」、2位「趣味やスポーツを楽しんでいる時(59.9%)」が約6割になっている。</li> <li>性別、年代別ともに差が大きいのは3位の「友人や知人と過ごしている時(51.2%)」で男女差16.2ポイント、年代差27.8ポイント。</li> <li>前回から傾向は変わらないが、4位の「ひとりで休養している時(47.9%)」が前回から10.1ポイント上昇している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家族団らんの時」「趣味やスポーツを楽しんでいる時」「友人や知人と過ごしている時」「ひとりで休養している時」の順に多く「仕事をしている時」はその次に来る。<u>一日の大半を費やす「仕事」の時間の充実感をいかにして高めるかを考える必要がある。</u></li> <li>「ひとりで休養している時」に充実感を感じる人が大きく増えている点も興味深い。コロナ禍で自分と向き合う時間が増えた影響であろうか。</li> </ul>
5-1	<p>(理想の同居者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「配偶者(73.1%)」が最多で、次いで「子(61.4%)」となっている。</li> <li>性別では「配偶者」は男性が女性より11.7ポイント高く、「子」は女性が男性より7.6ポイント高くなっている。</li> <li>年代別では、20代は「親」が最も高いが、30代以降は「配偶者」が最も高くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配偶者(73.1%)・子(61.4%)と3位の親(25.9%)の間に大きな差があり、親との同居志向は低い。</li> <li><u>一人暮らしを理想とする人が少ない(5.6%)のに、実際は県内全世帯の3分の1が一人暮らしの世帯である。一人暮らしでも孤独を感じない社会のあり方を考える必要がある。</u></li> </ul>
5-2	<p>(同居者に求めること)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「心の安らぎや休息を得ること(68.8%)」が最も高く、次いで「喜びや苦勞を分かちあうこと(48.1%)」となっている。</li> <li>「心の安らぎや休息を得ること」は性別では男性(72.5%)、年代別では20代(80.6%)が最も高くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「心の安らぎや休息を得ること」が最も多く、家族の一番大事な機能は安らげる場であることが改めて確認できた。</li> <li>他の選択肢も比較的満遍なく選ばれており、家族が多面的な機能を持つことの重要性を示す結果と言える。</li> </ul>
6-1	<p>(理想的な仕事)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「収入が安定している仕事(64.3%)」と「自分にとって楽しい仕事(63.1%)」の2つが特に多く、6割を超えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「収入が安定している仕事」が最も多いことに驚きは無い。<u>注目すべきは「自分にとって楽しい仕事」が「収入の安定」と肩を並べる水準で理想的と思われる点である。仕事を通じた自己実現の欲求の高さの証左と言え</u></li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>性別で差が大きいのは「世の中のためになる仕事(男性が女性より11.5ポイント大)」と「男女を問わず活躍できる仕事(女性が男性より10.6ポイント大)」</li> <li>年代別で最も差が大きいのは「自分にとって楽しい仕事(25.3ポイント=30代(76.1%)と80歳以上(50.8%)の差)」</li> </ul>	<p><u>新ビジョンの方向性の考える際の一つのポイントになる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自分にとって楽しい仕事」は30代をピークに歳を重ねるごとに理想的な仕事とは考えられなくなる傾向がある。歳を取ってもなお仕事に楽しさを求める人を増やすことも一つの課題と言えるのではないか。【p.6参照】</li> </ul>
6-2	<p><b>(理想的な働き方)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「残業や休日出勤をすることなく働く(59.3%)」が最も多く、次いで「転勤なく同じ場所で働く(53.1%)」となっている。</li> <li>年代別で最も差が大きいのは「残業や休日出勤をすることなく働く(51.4ポイント=30代(81.0%)と80歳以上(29.6%)の差)」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「残業や休日勤務がないこと」と「転勤がないこと」が理想的な働き方の二大要素との結果。<b><u>時間や場所にとらわれず働く、副業・兼業しながら働く、次々と仕事を変えるとといった新しい働き方への転換は、多くの人が望む働き方の祖上にまだ載っていないことが窺われる。</u></b></li> <li>「残業や休日勤務がないこと」を理想的な働き方とする人が20代~40代で多く(20代74.0%、30代81.0%、40代73.5%)、50代で少ない(59.1%)結果となった。<b><u>50代とそれ以下の年代で「残業や休日勤務」への意識に明らかな違いがある点が興味深い。</u></b>【p.7参照】</li> </ul>
6-3	<p><b>(テレワークの経験)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経験者は全体の約1割である(12.0%)。性別では男性が女性の約2倍であり、年代別では30代が最も多くなっている(21.5%)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレワーク経験者は最多の阪神南でも15.6%と少なく、導入が難しい業種があるとしても、<b><u>「集中から分散へ」の方向性に向かう上で必須の要素であるテレワークの普及がほとんど進んでいない実情が明らかになった。</u></b></li> </ul>
6-4	<p><b>(テレワークの課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「適した業務が少ない(40.5%)」が最も多い。経験者でもこの回答が最も多く(36.3%)、これと「機密情報の取扱いなどセキュリティ面で不安(36.0%)」「職場にある紙の書類が確認できず、稟議や書類処理も遅れる(35.2%)」の3項目が3分の1を超えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>結果の解釈に当たっては経験者の回答を重視すべき(6-5についても同様)。</li> <li>最多の「適した業務が少ない」には、そもそも対面が基本など業務の性質がテレワークになじまない場合のほか、当該事業所の業務のあり方がデジタル化に対応できていない場合も含まれていると考えられる。</li> <li>テレワークに適した業務のテレワークを進めることが重要であり、そのために「機密情報の取扱いなどセキュリティ面の不安」や「職場にある紙の書類の確認ができず、稟議や書類処理も遅れる」といった課題への対応を急ぎ進める必要がある。</li> </ul>
6-5	<p><b>(テレワーク導入の要件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「職場のシステム改善や人事管理の方法の明示など環境整備(38.9%)」が最も多くなっている。経験者では「書類のやりとりの電子化、ペーパーレス化、押印の廃止(58.2%)」が最も多く6割近くとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回答の多かった「書類のやり取りの電子化、ペーパーレス化、押印の廃止」「職場のシステム改善や人事管理の方法の明示など環境整備」「機密情報の取扱いなどルールづくり」は、いずれも事業所側の取組であり、事業所の速やかな取組を後押しする必要がある。</li> </ul>

6-6	<p>(テレワークの普及による変化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「通勤時間がなく時間を有効活用できる」が最多で、経験者の9割近く(88.5%)がこの項目を選んでいる。次いで「体調不良時の対応や感染症予防など健康管理がしやすい」が多い(経験者で64.6%)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「通勤時間がなく時間を有効活用できる」が圧倒的に多い。<u>通勤しなくてもよいことが生活の質を高める上で大きな意味を持つことに目を向ける必要がある。通勤時間がゼロか、短時間で済む働き方をできるだけ早く一般化する必要があることを示唆している。</u></li> </ul>
-----	---	--

### Ⅲ 将来への期待

問	結果概要 ◆印は前回(2017年度)調査項目	新ビジョン検討への示唆
7-1	<p>(これからの学校教育で大切なこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「他者への思いやりや、多様な価値観を尊重できること(70.4%)」が最多、次が「基礎的・基本的な学力を身につけること(50.4%)」で、3位「目標に対して粘り強くやり抜く力を育むこと(32.9%)」以下との間に大きな差がある。</li> <li>年代別では「他者への思いやりや、多様な価値観を尊重できること」「基礎的・基本的な学力を身につけること」が全年代で1位、2位を占める。3位は、40代以下と80歳以上では「目標に対して粘り強くやり抜く力を育むこと」が、50代から70代では「社会の課題について自ら考える力を育むこと」が選ばれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「他者への思いやりや、多様な価値観を尊重できること」が1位で、2位の「基礎的・基本的な学力を身につけさせること」を引き離していることに希望を見出したい。<u>多くの県民がこのような認識を持っている一方で、多くの学校では未だに知識詰め込み型の教育が中心である。学校教育に対する県民の思いと現実のギャップを埋めていく方向性を示す必要がある。</u></li> </ul>
7-2	<p>(取り組むべき教育の手法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「対話を重視した教育(55.9%)」が最多、次が「体験学習(50.9%)」で、以下「少人数学級(36.6%)」「外部人材の活用(32.6%)」「オンライン教育(27.6%)」となっている。</li> <li>年代別では全体1位の「対話を重視した教育」が20代~40代で2位、50代以上で1位となる一方、全体2位の「体験学習」が20代~40代で1位、50代以上で2位となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「対話を重視した教育」と「体験学習」の2つが重点的に取り組むべき教育の手法と考えられており、問7-1の回答結果に呼応している。今後の教育のあり方を考える一つのポイントになる。</li> </ul>
8	<p>(科学技術の発展)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「インターネットなどを不正に利用した犯罪が増える(61.6%)」が最多で、次が「人間的なふれあいが減少する(51.0%)」となっている。</li> <li>年代別では「インターネットなどを不正に利用した犯罪が増える」は80歳以上を除く全年代で1位。全体2位の「人間的なふれあいが減少する」は80歳以上(1位)と30代(3位)を除く全年代で2位。全体3位の「遺伝子治療など医療の発達により元気に長生きできる」は30代で2位、50代~70代で3位を占める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>社会のデジタル化に関して「インターネットなどを不正に利用した犯罪が増える」「人間的なふれあいが減少する」といった不安を感じている県民が多いことがわかった。</u></li> <li>一方で、<u>様々な技術革新を前向きに受け止め、科学技術の力でよりよい社会になるという見通しを持っている県民が多い</u>こともわかった。</li> </ul>

9	<p>(在留外国人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域住民との意思疎通が難しい(48.1%)」が最も多く、次いで「労働力不足の解消(43.7%)」「国際的視野が広がる(43.3%)」となっている。</li> <li>・年代別では、1位「地域住民との意思疎通が難しい」は20代と80歳以上を除く年代でいずれも1位。2位「労働力不足の解消」は80歳以上で1位、50代と60代で2位を占めている。3位「国際的視野が広がる」は20代で1位、50代と60代で3位、他の世代ではいずれも2位を占めている。</li> <li>・地域別では、1位「地域住民との意思疎通が難しい」は、神戸、阪神北、東播磨、北播磨、中播磨、丹波で1位。2位「労働力不足の解消」は、西播磨、但馬、丹波、淡路で1位になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>意思疎通の難しさを感じる一方で</u>、「労働力不足の解消」「日本人の国際的視野が広がる」「新しい考えや文化がもたらされ地域が活性化する」といった<u>前向きな受け止めをしている県民が多い</u>ことがわかった。</li> </ul>
10	<p>(地域社会の将来像) ◆</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「介護・福祉、医療の体制が充実している」が7割を超えている(73.6%)。</li> <li>・年代別で最も差が大きいのは「働き方の見直しにより自由な時間が増加している(35.7ポイント=20代(42.1%)と70代(6.4%)の差)」次いで差が大きいのは「子育てや教育環境が充実している(34.1ポイント=30代(74.2%)と80歳以上(40.1%)の差)」</li> <li>・地域別では「介護・福祉、医療の体制が充実している」が全地域で1位。最も地域差が大きいのは「犯罪や交通事故が少ない(24.8ポイント=阪神北(56.6%)と淡路(31.8%)の差)」となっている。</li> <li>・前回から傾向は変わらず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「介護・福祉、医療の体制が充実している」「犯罪や交通事故が少ない」「子育てや教育環境が充実している」「災害への備えが充実している」は前回調査でもトップ4を占めていた。この結果から、<u>県民が共通して願う地域社会の将来像は、基礎的な生活基盤が充実している姿</u>であることがわかる。<u>なかでも介護・福祉、医療の充実への期待が群を抜く。</u></li> <li>・また「温かい人間関係がある」「豊かな自然が守られている」「地場産業や商店街が元気である」も多く、<u>生活基盤の充実の次には、地域コミュニティの活力や、良好な自然環境が重要</u>と考えられていることがわかった。</li> </ul>

問2 居住地域での項目別満足度（地域別）

区分	全県			神戸			阪神南			阪神北		
	満足	不満	差									
ケ 大気や水などの環境	56.8%	12.3%	44.5p	55.8%	12.1%	43.7p	47.6%	18.5%	29.1p	65.4%	5.5%	59.9p
オ 商店・商業施設	56.5%	28.7%	27.8p	59.3%	29.3%	30.0p	68.3%	18.9%	49.4p	57.0%	26.9%	30.1p
ア 子育て・教育環境	50.0%	11.6%	38.4p	51.0%	10.0%	41.0p	44.4%	13.1%	31.3p	52.8%	9.4%	43.4p
カ 公共交通、道路整備	49.5%	30.8%	18.7p	57.2%	23.8%	33.4p	64.4%	21.8%	42.6p	51.0%	30.4%	20.6p
ウ 人と人のつながり	44.0%	12.8%	31.2p	43.1%	15.2%	27.9p	38.2%	13.8%	24.4p	44.8%	9.7%	35.1p
イ 介護・福祉、医療体制	40.0%	18.9%	21.1p	41.0%	15.5%	25.5p	39.2%	17.1%	22.1p	37.8%	19.5%	18.3p
サ 犯罪・交通事故	37.6%	19.1%	18.5p	37.3%	19.7%	17.6p	34.9%	28.0%	6.9p	40.6%	11.2%	29.4p
キ 娯楽・レジャー施設、公園	33.0%	29.9%	3.2p	36.2%	27.5%	8.7p	43.2%	19.2%	24.0p	34.9%	27.3%	7.6p
コ 災害への備え	29.3%	18.0%	11.3p	32.8%	16.9%	15.9p	26.9%	21.9%	5.0p	27.6%	14.3%	13.3p
エ 雇用、働く環境	28.3%	24.5%	3.8p	29.4%	22.4%	7.0p	30.5%	20.3%	10.2p	28.6%	18.5%	10.1p
ク 文化・芸術活動、地域のイベント	24.7%	23.2%	1.5p	21.4%	24.8%	▲3.4p	29.5%	19.6%	9.9p	30.0%	21.0%	9.0p

区分	東播磨			北播磨			中播磨			西播磨		
	満足	不満	差	満足	不満	差	満足	不満	差	満足	不満	差
ケ 大気や水などの環境	50.5%	13.5%	37.0p	65.3%	10.4%	54.9p	55.5%	12.3%	43.2p	47.6%	13.2%	34.4p
オ 商店・商業施設	59.2%	26.0%	33.2p	38.4%	39.7%	▲1.3p	55.8%	26.6%	29.2p	38.8%	40.1%	▲1.3p
ア 子育て・教育環境	54.0%	10.3%	43.7p	46.2%	15.9%	30.3p	57.5%	11.6%	45.9p	47.6%	13.2%	34.4p
カ 公共交通、道路整備	43.4%	33.4%	10.0p	24.7%	48.1%	▲23.4p	46.5%	31.6%	14.9p	30.7%	46.7%	▲16.0p
ウ 人と人のつながり	45.0%	10.9%	34.1p	48.1%	13.7%	34.4p	46.2%	11.7%	34.5p	49.4%	11.1%	38.3p
イ 介護・福祉、医療体制	42.8%	16.1%	26.7p	39.1%	24.0%	15.1p	41.5%	19.6%	21.9p	39.7%	25.9%	13.8p
サ 犯罪・交通事故	30.6%	22.5%	8.1p	40.7%	14.0%	26.7p	36.2%	18.6%	17.6p	46.4%	13.2%	33.2p
キ 娯楽・レジャー施設、公園	28.3%	32.8%	▲4.5p	22.5%	37.5%	▲15.0p	33.8%	29.2%	4.6p	20.5%	41.9%	▲21.4p
コ 災害への備え	25.7%	17.3%	8.4p	29.1%	17.5%	11.6p	29.0%	18.2%	10.8p	34.6%	20.8%	13.8p
エ 雇用、働く環境	28.3%	19.9%	8.4p	24.1%	35.9%	▲11.8p	31.6%	21.6%	10.0p	23.5%	42.5%	▲19.0p
ク 文化・芸術活動、地域のイベント	18.6%	22.8%	▲4.2p	25.6%	22.5%	3.1p	28.2%	21.9%	6.3p	25.9%	27.1%	▲1.2p

区分	但馬			丹波			淡路		
	満足	不満	差	満足	不満	差	満足	不満	差
ケ 大気や水などの環境	68.4%	11.1%	57.3p	64.8%	12.5%	52.3p	65.0%	9.3%	55.7p
オ 商店・商業施設	26.1%	54.0%	▲27.9p	34.3%	42.9%	▲8.6p	35.0%	46.6%	▲11.6p
ア 子育て・教育環境	38.2%	20.5%	17.7p	39.7%	15.4%	24.3p	44.2%	14.7%	29.5p
カ 公共交通、道路整備	22.1%	53.7%	▲31.6p	19.9%	54.8%	▲34.9p	19.9%	57.9%	▲38.0p
ウ 人と人のつながり	53.4%	9.6%	43.8p	50.9%	13.5%	37.4p	45.6%	16.1%	29.5p
イ 介護・福祉、医療体制	33.5%	32.3%	1.2p	38.1%	34.0%	4.1p	37.7%	26.7%	11.0p
サ 犯罪・交通事故	50.6%	10.2%	40.4p	43.0%	10.0%	33.0p	44.6%	9.9%	34.7p
キ 娯楽・レジャー施設、公園	11.4%	60.3%	▲48.9p	13.2%	53.8%	▲40.6p	14.3%	48.6%	▲34.3p
コ 災害への備え	31.9%	17.1%	14.8p	27.2%	19.8%	7.4p	27.4%	18.2%	9.2p
エ 雇用、働く環境	18.6%	50.4%	▲31.8p	19.6%	41.4%	▲21.8p	20.2%	50.0%	▲29.8p
ク 文化・芸術活動、地域のイベント	20.5%	28.9%	▲8.4p	23.0%	27.2%	▲4.2p	16.1%	34.9%	▲18.8p

満足上位3  
 不満上位3

問6-1 理想的な仕事（年代別）

	収入が安定している仕事	自分にとって楽しい仕事	自分の専門知識や能力が生かせる仕事	世の中のためになる仕事	失業の心配が少ない仕事	男女を問わず活躍できる仕事	高い収入が得られる仕事	その他	わからない
全体	64.3%	63.1%	43.3%	32.7%	27.6%	15.0%	12.1%	1.8%	2.5%
20代	64.9%	70.7%	40.1%	29.8%	28.1%	10.3%	25.6%	2.1%	0.0%
30代	62.6%	76.1%	42.6%	29.1%	31.9%	17.2%	18.7%	2.1%	1.2%
40代	69.7%	65.8%	46.0%	32.6%	28.3%	14.9%	16.3%	1.8%	0.2%
50代	69.2%	64.0%	48.4%	38.7%	27.7%	13.8%	15.4%	0.6%	0.0%
60代	65.0%	62.1%	46.2%	36.0%	25.5%	12.2%	8.9%	0.2%	2.5%
70代	62.4%	57.6%	39.6%	27.0%	27.9%	17.3%	5.0%	2.9%	4.5%
80歳以上	54.5%	50.8%	37.7%	33.7%	25.3%	20.2%	1.7%	4.0%	8.8%
年代差	15.2p	25.3p	10.7p	11.7p	6.6p	9.9p	23.9p	3.8p	8.8p

問6-2 理想的な働き方（年代別）

最大値

最小値

	残業や休日勤務をすることなく働く	転勤なく同じ場所で働く	趣味の一環として働く	時間にとらわれずに働く	場所にとらわれずに働く	時おり大学などで学び直しをしながら働く	本業に加え副業・兼業しながら働く	次々に仕事を換えながら働く(自ら仕事を生み出すことも含む)	本業はもたず複数の仕事をしながら働く	その他	わからない
全体	59.3%	53.1%	25.1%	24.3%	19.1%	12.0%	10.9%	2.9%	1.3%	2.6%	5.0%
20代	74.0%	52.5%	20.2%	24.0%	27.3%	9.5%	9.5%	5.4%	3.3%	0.4%	1.7%
30代	81.0%	55.5%	23.3%	29.1%	21.2%	10.4%	11.7%	6.4%	0.6%	1.8%	0.3%
40代	73.5%	57.4%	25.1%	25.1%	16.5%	11.0%	12.8%	2.6%	1.0%	0.8%	0.4%
50代	59.1%	53.0%	24.7%	26.5%	20.8%	13.0%	13.4%	2.2%	1.0%	1.8%	1.4%
60代	60.0%	49.3%	22.4%	22.8%	18.6%	15.1%	8.5%	1.9%	1.0%	2.1%	6.6%
70代	44.1%	53.2%	27.0%	22.1%	14.9%	9.4%	8.2%	2.7%	1.3%	5.7%	10.7%
80歳以上	29.6%	52.5%	32.0%	20.9%	21.5%	14.1%	12.1%	1.7%	2.4%	3.7%	13.1%
年代差	51.4p	8.1p	11.8p	8.2p	12.4p	5.7p	5.2p	4.7p	2.7p	5.3p	12.8p